

実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	42
学校名	富山県立高岡聴覚総合支援学校

学校の現状と課題	・平成22年度から高等部に軽度知的障害の生徒を対象とした福祉・サービス科を設置し、聴覚障害の生徒と共に学んでいる。 ・福祉・サービス科では、福祉、家政、流通・サービスに関する知識や技能の習得、校内や地域での実習等を通し、卒業後の就労を目指して技術や態度を養っている。そのためには実践的かつ専門的な知識・技能の育成が必要であり、体験的学習の機会の確保と、教員の専門性の向上、施設・設備面の充実が課題となっている。
テーマ(特色)	社会的・職業的自立に向けた実践的・体験的な学習活動の充実
設定した「テーマ」の達成状況	・環境美化や生活福祉の各分野における専門家を外部講師として招いたり、地域の福祉施設等の協力を得たりして、清掃技術や高齢者介護・介助等の実技指導等を受け、実践的な実習を継続的に行うことができた。 ・校内行事や外部講師の都合により、日が変更になることはあったが、調整により計画通りの実技講習回数を実施することができた。 ・専門教科「作業」の学習活動の中に、「とやまアビリンピック」出場に向けて競技内容の練習を取り入れ、生徒の学習への意欲を高めるとともに、正確で時間を意識した素早い作業への意識付けを図った。
実施内容 (具体的に記入する)	○環境美化に関する実技講習(8回) ・清掃の意義について ・基礎的な清掃技術指導(ダスターモップでのフロア清掃、自在ぼうきでの階段清掃、スクイージーでの窓清掃等) ・「とやまアビリンピック」の競技内容(ビルクリーニング)の基本動作と効率的な作業導線などの実技指導 ○地域実習先(高齢者福祉施設)での実技講習(15回) ・清掃の進め方や目的、清掃用具の扱い方 ・福祉施設内の清掃(手すりやテーブルの除菌、トイレ・洗面台・廊下・居室等の清掃) ○生活福祉に関する講義及び実技講習(4回) ・高齢者介護の基本について ・車いすの取扱い方や車いす利用時の介助について ・衣類の着脱介助について ・食事介助について
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	・環境美化研修では、清掃会社の方による講義と実技講習を通して、清掃業務の技術だけではなく、働くことの意義や目的、社会人として必要な態度についても学ぶことができ、生徒たちの将来の就労に対する意識の向上につながった。作業の目的を明確にし、その目的を確実に、効率的に果たすための方法について考えながら作業することの大切さについても教わった。 ・高齢者福祉施設での実習を通して、ルールを守り、施設利用者や職員の動きを妨げないように気を配りながら清掃業務に取り組む姿勢が身に付いた。校内での実習の際にも、気を配りながら清掃作業をするなど、実習経験を生かすことができた。 ・地域実習の講師からは、研修のまとめの際に、生徒一人一人に対して実習の成果と課題の評価をいただいた。生徒の自己理解を深める機会となるとともに、達成感につながり、今後の励みとなった。 ・生活福祉研修では、高齢者福祉施設の現場で働く職員を講師に迎え、生徒の知的障害の実態を踏まえた実践的で分かりやすい内容を、専門的な知識とともに教えていただくことで、介護業務について具体的なイメージをもつことができた。 ・この実習で学んだ清掃技術や「働くために必要なことや心構え」を生かして、インターンシップで実践できた生徒が多かった。 ・校内での実技講習では、実習担当以外の教員も参加し、講師から専門的な知識・技術や指導のポイント、それぞれの業務に携わる上での目的や心構えなどについても学ぶことができ、就労支援についてとても参考になった。
対象者(学年・人数など)	高等部 福祉・サービス科 1年3名、2年3名、3年2名、教職員9名
実施実績	4月
	5月 環境美化①、地域実習①
	6月 環境美化②、地域実習②
	7月 環境美化③④、地域実習③
	8月
	9月 環境美化⑤⑥、地域実習④
	10月 環境美化⑦⑧、地域実習⑤⑥⑦⑧、生活福祉①②
	11月 地域実習⑨
	12月 地域実習⑩⑪、生活福祉③
	1月 地域実習⑫⑬、生活福祉④
	2月 地域実習⑭⑮
	3月